

祝詞

向上への新たな道標を目指して



学校法人関西大学

常務理事 森本靖一郎

輝かしい歴史と伝統をもつ関西大学体育会レスリング部が、ここに創部50周年の記念すべき慶節を迎えられ、まことに喜ばしく、心をこめて祝意を表するものであります。

レスリング部が20年前に刊行された「30周年記念誌」を拝見しますと、創部時代からの様子を詳しく丁寧にまとめられ、みごとな結束を垣間見ることができます。各時代に活躍された幾多の選手のなかには、東京オリンピックでみごと金メダルの栄誉に輝く市口政光選手を頂点の一つとする、燦然たる金字塔を打ち立てられた実績と、関係者のご努力が彷彿として感じられます。

レスリングが古代ギリシア時代から続く2000年以上の歴史からみると、昭和23年に呱呱の声をあげた関西大学レスリング部の歴史は、わずかにひと節に過ぎないかも知れませんが、そのひと節に詰め込まれた実績は、みごとというほかないと思っております。さらにレスリングには野性動物の生態にも共通する自然で、摂理にもかなった、スポーツの原型が発見でき、レスリングが長い命脈を保ちえた秘密があるのかも知れません。

今回の「記念誌」は、きっと50年間の所狭しと詰め込まれた貴重な活躍の記録が、誇らしげに輝きを放っていることでしょう。それは文字どおり先人の遺産であり、その遺産を相続できる現役選

手諸君のアイデンティティの証でもあります。またそこに内包され、OB・現役に向かって発揚する高貴なエッセンスは、決して一朝一夕にして生成されたものではありません。まさに半世紀を闊してはじめてできたものであります。

幸い選手時代を経て監督としての功績を挙げ、母校でも文学部教授として長くご活躍のうえ、国際舞台でも競技運営の面で、文字どおり世界を駆け巡りレスリングとスポーツの振興に貢献されておられます伴義孝教授をはじめ、代々のOB各位には何といたってもレスリングへの情熱があります。これらのすばらしい財宝を共有される全関大レスリング人の皆様が、この「記念誌」をとおして高貴薬ともいえるエッセンスを吸収し、大きなエネルギーとして熟成され、関西大学レスリング部の名声をいやがうえにも高められるとともに、さらにKUの絆で結ばれた母校関西大学の発展に寄与されるならば、創部50周年を祝うこの「記念誌」は、名実ともに得難いモニュメントとなって、次の世代に受け継がれていくであらう。

関西大学レスリング部の現役・OBの皆様が、向上への新たな道標を目指してご精進されることに期待を寄せ、ここに改めて熱い祝福のエールをお送りするものであります。